

# 令和4年度第3回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会

## 配 付 資 料

- 令和4年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿 . . . . . P 1
- 【資料1】 令和4年度第2回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会の概要 . . . . . P 2
- 【資料2】 これまでの協議における意見や考え方の整理 . . . . . P 5
- 【資料3】 これまでの県立高校（全日制）の統合について . . . . . P 7
- 【資料4】 学級規模による教育環境の比較 . . . . . P11
- 【資料5】 令和10年度までの伊勢志摩地域の県立高等学校（全日制）の  
総学級数について . . . . . P13
- 【資料6】 地域の中学生・保護者を対象としたアンケート調査（案）について . . . . . P14
- 【参考資料1】 令和2～3年度協議会での意見 . . . . . P15
- 【参考資料2】 令和4年度第1回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会の概要 . . . . . P19
- 【参考資料3】 伊勢志摩地域 中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減） . . . . . P22
- 【参考資料4】 伊勢志摩地域の中学校卒業者数（予測）と県立高等学校募集定員 . . . . . P23
- 【参考資料5】 伊勢志摩地域の高等学校等の学科・コースについて . . . . . P24

## 令和4年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

No	所属及び名前	本年度 出席委員
1	学識経験者 三重大学 大学院生物資源学研究科 教授 坂本 竜彦	○
2	地域有識者 亀谷内科胃腸科 院長 亀谷 章	○
3	鳥羽商工会議所 専務理事 清水 清嗣	○
4	志摩市商工会 事務局長 竹内 厚史	○
5	度会町商工会 事務局長 富内 伊佐雄	○
6	伊勢市教育委員会 教育長 岡 俊晴	○
7	鳥羽市教育委員会 教育長 小竹 篤	○
8	市町教育委員会 教育長 志摩市教育委員会 教育長 舟戸 宏一	○
9	度会町教育委員会 教育長 中村 武弘	○
10	南伊勢町教育委員会 教育長 劔山 成実	○
11	県立高等学校長代表 県立南伊勢高等学校 校長 角屋 貴久	○
12	小中学校長代表 伊勢市立港中学校 校長 清水 能人	○
13	鳥羽市立加茂中学校 校長 西井 潔	—
14	志摩市立東海中学校 校長 寺本 一夫	○
15	大紀町立大宮中学校 校長 辻井 良孝	—
16	小中学校PTA代表 伊勢市PTA連合会 代表 浦田 宗昭 (伊勢市立厚生中PTA)	○
17	鳥羽市PTA連合会 代表 水川 敬善 (鳥羽市立加茂中PTA)	○
18	志摩市PTA連合会 代表 大西 正和 (志摩市立東海中PTA)	○
19	度会郡PTA連絡協議会 代表 東谷 雅人 (玉城町立外城田小PTA)	○
20	高等学校PTA代表 南勢地区高等学校PTA連合会 代表 藤原 達郎 (県立水産高校PTA)	○
21	小中学校教職員代表 伊勢市立明倫小学校 教諭 坂口 直矢 (伊勢市 教員代表)	○
22	志摩市立東海小学校 教諭 里中 洋典 (鳥羽・志摩地域 教員代表)	○
23	南伊勢町立南勢中学校 教諭 加藤 隆彦 (度会・南伊勢地域 教員代表)	—
24	高等学校教職員代表 県立伊勢工業高等学校 教諭 三橋 哲夫 (県立高等学校 教員代表)	○

## 令和 4 年度第 2 回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会(7/5)の概要

1 日時 令和 4 年 7 月 5 日 (火) 19 時 00 分から 21 時 00 分まで

2 場所 伊勢庁舎 4 0 1 会議室

### 3 概要

伊勢市内の県立高等学校長 2 名をゲストスピーカーとして招き、各校の特色、取組や現状等について意見交換するとともに、伊勢志摩地域の県立高等学校の総学級数が 18～21 学級となる令和 19 年度のあり方について、以下の 2 点について協議しました。

- ① 15 年先に実現したい、子どもたちの多様なニーズに対応した学びや、伊勢志摩地域の担い手を育む教育
- ② ①の学びを実現するための具体的な県立高等学校の学科、学校の規模や配置に関する考え方

### 4 主な意見

#### (地域の県立高校学校長との意見交換)

- この地域の高校生の約 6 割が伊勢市内にある県立 2 校と私立 2 校の普通科高校に在籍している。私立高校は定員を減らしながらも、定員を越える生徒数が入学している現状について、どう感じているのか。

⇒私立高校へ多くの中学生が入学していくことについては、学校現場としても危機感を持っている。県立高校としては高校の魅力を高めるとともに、中学生やその保護者への PR 活動に力を入れて入学者の確保に努めている。

- 地域の進学校において、入試倍率が 1.0 を少し越える程度である状況の中、入学した生徒に学力差があるのではないかと、また生徒の多くは授業についていけないのか。

⇒入試倍率が低い状況では、確かに学力差も広がる傾向にあるが、これまでと同様にそれぞれの生徒に応じた指導を継続している。

- 他地域における専門学科高校の統廃合の実例も参考にしながら、この地域の高校のあり方についての協議を深めていきたい。

⇒他地域の統廃合を参考とする場合、立地環境や統廃合の検証をふまえる必要があり、安易に他地域の実例を当地域にあてはめることは難しいと思う。

- 商業高校と工業高校の統合には課題が多いという教育現場の意見があったが、過去には商工で一つの学校の時代もあった。どのような課題が考えられるのだろうか。

⇒生徒の進路ニーズが似ており、実習が多い職業系高校同士のほうが、より近い教育目標となり、学科を越えた連携も比較的行きやすい。

#### (この地域で大切にしていきたい県立高校での学びについて)

- 新しい学習指導要領でも示されているように、これからの子どもたちにとって必要な力とは、Well-being (ウェルビーイング) をどのように追求していくかを考えるなどの課題解決能力ではないか。

- 小中学校だけでなく、高校においても地域のことを学んでいくことが大事である。自分が住んでいる地域のこれからの課題や解決策等を高校時代に真剣に考えることで、たとえ県外へ進学や就職をしても、将来地元に戻ってくる者も増えるのではないか。これまで小規模校で培ってきた地域学をもう少し広くとらえた「伊勢志摩学」をすべての高校で学ぶ必要があると思う。
- 15年先のことを考えるにあたって一番大切にすべきなのは子どもたちのことである。統廃合を考えるにあたっては、地理的な課題などいろいろなハードルがあるものの、教員側や行政側の都合よりも、子どもたちの視点に立ってどういう学びを提供していくかを考えていく必要がある。

### (15年後を見据えた県立高校の学科、学校の規模や配置に関する考え方)

- 中学校卒業者が大幅に減少する15年先まで高校再編をしないのではなく、例えば普通科どうし2校の統合、普通科2校と普通科に近い商業高校の3校の統合や、専門学科に様々なコースを設定するなど、いろいろなアイデアは考えられる。
- 伊勢市以外の1学年3学級以下の高校だけをどうするかという議論に終わらず、伊勢市内の高校も含めた15年後のあり方を議論する必要がある。
- 地域全体の高校規模をスケールダウンしていく必要がある中、子どもたちのニーズに応じた選択肢を確保することは大変重要なことである。その選択肢の確保を1つの高校でできるのか、複数の高校で協力することでできるのかを考えていく必要がある。
- 生徒数、学級数が確実に減っていく中、すべての学科を単独で残すことが難しいのであれば、学科をなくすのではなく、統合しながら選択肢を残していくという発想で進めていく必要がある。
- 自分の高校時代に一番有益だったことは、様々な人との出会いがあったことであり、その頃の人とのつながりは社会人になった今でも自分の財産となっている。このような様々な人との出会いの重要性を考えると、高校はある程度の規模があるほうがよい。
- 小学校のときの教え子が、地元高校卒業後に地元で「若手漁師」として活躍し、その魅力を情報発信している。高校生へのアンケート調査からもわかるように、この地域の子どもたちは高校に人との出会いを期待しており、彼も高校時代に上手く人とのつながりを構築する術を学んだことで、自分の夢をかなえたと思う。
- これからは、高校進学においても現在の大学進学と同様に、自分が求める学びや学科のある学校に進学したいときは、遠いところであっても行くしかない時代になるのではないか。
- 教育内容ではなく、単純に40人の学校と400人の学校とを比較したとき、子どもたちはたくさん友人がいるほうがよいと考える。高校には一定規模が必要と考えるが、小規模な高校を維持していく場合は、地域の人とのつながりや他校と連携した取組を進めながら維持していく必要がある。
- 学校の特色や、高校生が輝く教育といった視点も大切であるが、どの地域においても最低限の教育を保障していくことが一番大事と考える。

- 15年先に必要なことは、高校が一カ所に集中している状態ではなく、学びたいことが身近なところで学べるような高校の配置でなければならないと思う。伊勢志摩地域で通える範囲に高校教育が保証されることが大事である。
- 効率性や生産性だけを考えて、ものづくりやサービスの提供を行うと、次第に劣化してしまうことが多い。教育においては一定の余裕ある仕組みが大切だと考える。高校を卒業してから15～20年先にでも地域に戻ってくる人材は必要であるため、地域で多様な人材を育てていく学校にしてもらいたい。

#### (地域の普通科や専門学科の学びについて)

- 普通科高校については、私立高校に一定の定員があるものの、生徒や保護者の大学進学ニーズが高いため、県立高校の普通科にはある程度の規模を持った学校を確保すべきである。そうすることで、生徒が地域の一定規模の私立高校に集中したり、伊勢志摩地域外の高校へ流出したりすることを防ぐ必要がある。
- 普通科高校については、今後も進学を希望する生徒のニーズに応じていく必要があるとともに、これまで小規模校で培ってきた丁寧な指導による教育プログラムを継承していくことが大事である。
- 卒業生の多くが就職する専門学科は、この地域の産業を担う人材の育成だけでなく、多様で魅力的な学びの選択肢を保障する観点からも地域に維持したい学びである。
- 専門学科高校については、ある程度選択できる学科があったほうが子どもたちの学びにとってはいいという意見は当然だと思う一方、専門性の維持には一定の規模が必要なため、配置のあり方については、継続的に議論していく必要がある。
- 各専門学科として高校を存続したいと考えても、生徒数が減れば維持することが難しくなるため、複数の専門学科が一つの高校に統合することは選択肢の一つだと考える。
- 専門学科高校同士の統合は課題が多いと考えている。たとえば農工商3校で各校3～4学級規模が統合すれば、専門教育の維持とともに、他学科との連携も進むだろうが、各専門学科1学級規模での統合であれば、各専門の教員数も少なく専門性の追究も難しくなり、他学科との連携も弱くなってしまう。工業高校は同じ工業高校同士で統廃合するなど、他地域の同一学科と統合するほうが専門性を活かした教育を維持できると思う。

#### (子どもたちや保護者の声を聞くことについて)

- 地域の子どもたちが、本協議会で議論されている高校の学びについて、どうとらえるのかを把握したうえで議論を進めたほうが良いのではないかと。
- これからの協議を深めていくため、中学生や保護者を対象としたアンケートなどを行うことには賛成であるが、単に希望校などを聞くのではなく、子どもたちや保護者の思いが分かるような工夫と配慮が必要である。
- 大学生の保護者から、地元に戻ってきて欲しいが本人には言えないという声を聞くことがある。子どもたちや保護者の教育に対するニーズに加え、保護者には進学後に地元に戻ってほしいという思いがあるのかも聞いてみたい。

## これまでの協議における意見や考え方の整理

令和 2～3 年度に当協議会における議論をまとめたもの（参考資料 1）に、今年度開催した 2 回の協議会での意見（参考資料 2 と資料 1）を加えました。下記の意見や考え方については、今後もさらに協議を重ねながら、少子化がさらに進行していく 15 年先を見すえた当地域の高等学校の学びと配置のあり方を整理し、まとめていきます。

次回以降の協議会では、中学生や保護者へのアンケートを実施（資料 6）してその結果をふまえながら、近い将来に想定される学級減（令和 6 年度等）への具体的な対応（資料 5）への協議を進めていくこととします。

### 1. これからの伊勢志摩地域の高校生に必要な力や学びについて

- ・変化の激しい時代を生き抜いていく力を育むことが大切
- ・働く意義の自覚や人間性の育成のためにも、キャリア教育を推進することが大切
- ・知識や技能の修得だけでなく、自ら課題を発見し、その課題を解決していく能力を育成することが大切
- ・地域への愛着心を養うことが大切
- ・将来、地域の担い手となる人材や、地域に戻って活躍するような人材の育成が大切

### 2. 今後の生徒減における地域の高校の学びと配置のあり方を協議するにあたり、大切にすべきことや配慮すべきことについて

#### 「これまで培ってきた地域と連携した学びの継続」

- ・地域の担い手育成の視点からも、小中学校で行われている「ふるさと教育」等は大切
- ・高校においても、小規模校で進めてきた地域を学びの場とする地域課題に取り組むことが大切
- ・これからは伊勢志摩地域を一つの地域としてとらえる「伊勢志摩学」として特色ある地域の教育と位置付け、地域すべての高校において進めることが大切
- ・ICTも活用しながら、通信制課程で地域の学びを保障していくなどの視点も大切

#### 「ICTを活用した学習」

- ・高等教育機関や専門家等とつなぐことは専門的な知識の伝達や交流活動に効果的
- ・一方、協働的な学びや、学校行事・部活動などにおいて、対面ほどの効果を得ることは困難
- ・今後もこの地域で有効に活用できるよう、柔軟に研究や実践を続けていくことが大切

#### 「生徒の通学状況への配慮」

### 3. 今後の生徒減に対応した地域の普通科や専門学科等の学びの考え方について

- ・ 学びの選択肢を地域の中で、できる限り確保することが大切
- ・ 普通科・専門学科・総合学科のバランスの取れた配置が大切
- ・ 生徒や保護者の大学進学へのニーズに対応するため、地域の中に一定の規模の県立高校の普通科を維持することが必要
- ・ 地域の担い手を育む学びの選択肢を確保するため、多様な専門学科の学びはできる限り維持することが大切

### 4. 今後の生徒減に対応した県立高等学校の規模と配置の考え方について

- ・ 今後の伊勢志摩地域の中学校卒業生数の減少をふまえると、現在のままの県立高校の配置を続けていくことは困難
- ・ 地域の小規模校がこれまで果たしてきた役割や、丁寧な指導などの教育内容を大切にしながらも、学校個別ではなく、地域全体で高校の学びを考えて統合を協議していくことが必要
- ・ 単に志願者や入学者等の数によって、高校の統廃合を検討するのではなく、伊勢志摩地域で通える範囲に高校が配置され、地域で多様な人材を育てることが大切
- ・ 専門学科同士の統合も含め、今後もその配置のあり方について継続的な検討が必要
- ・ 高校時代に多くの人との出会いの中で学び合うことは、生徒の社会性や人間性の育成にとって大切
- ・ 様々な生徒の学びのニーズに応えられるよう、一定の規模を維持しながら、高校をより魅力化することが大切

## これまでの県立高校（全日制）の統合について

## 1 紀北地域の統合（尾鷲工業高校、長島高校）

平成 13 年 4 月 尾鷲工業高校が尾鷲高校と統合し、尾鷲高校にシステム工学科が設置される

平成 17 年 4 月 長島高校が尾鷲高校長島校となり、分校となる（普通科 1 学級）

平成 20 年 4 月 尾鷲高校長島校が募集停止となる（H22. 3 閉校）

	H11.3 卒	H12.3 卒	H13.3 卒	H14.3 卒	H15.3 卒	H16.3 卒	H17.3 卒	H18.3 卒	H19.3 卒	H20.3 卒
尾鷲地域総学級数	11	11	10	9	9	9	8	8	8	7
地域中学校卒業生数	542	510	492	496	481	441	411	400	381	350

## （平成 12 年度募集定員）

尾鷲高校 7 学級 280 人  
普通科（5）商業科（2）  
尾鷲工業高校 2 学級 80 人  
機械設備システム科（1）  
電気情報システム科（1）

長島高校 2 学級 80 人  
普通科（1）  
福祉・情報コース（1）

## （平成 13 年度募集定員）

尾鷲高校 8 学級 320 人  
普通科（5）  
商業科（2）  
システム工学科（1）

長島高校 2 学級 80 人  
普通科（1）  
福祉・情報コース（1）

## （平成 16 年度募集定員）

尾鷲高校 7 学級 280 人  
普通科（3）  
プログレッシブコース（1）  
情報ビジネス科（2）  
システム工学科（1）

長島高校 2 学級 80 人  
普通科（1）  
福祉・情報コース（1）

## （平成 17 年度募集定員）

尾鷲高校 7 学級 280 人  
普通科（3）  
プログレッシブコース（1）  
情報ビジネス科（2）  
システム工学科（1）

尾鷲高校長島校 1 学級 40 人  
普通科（1）

## （平成 19 年度募集定員）

尾鷲高校 7 学級 280 人  
普通科（3）  
プログレッシブコース（1）  
情報ビジネス科（2）  
システム工学科（1）

尾鷲高校長島校 1 学級 40 人  
普通科（1）

## （平成 20 年度募集定員）

尾鷲高校 7 学級 280 人  
普通科（3）  
プログレッシブコース（1）  
情報ビジネス科（2）  
システム工学科（1）

※令和 5 年度募集定員（R5. 3 紀北地域中学校卒業見込み者数 220 人：1 校）

○尾鷲高校：160 人 普通（70 人）、プログレッシブコース（30 人）  
情報ビジネス（30 人）、システム工学（30 人）



## 2 伊賀地域の統合

(上野農業高校・上野工業高校・上野商業高校、名張西高校・名張桔梗丘高校)

平成 21 年 4 月 上野農業高校・上野工業高校・上野商業高校の 3 校を統合し、伊賀白鳳高校が開校する (旧上野工業高校敷地)

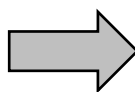
平成 28 年 4 月 名張西高校・名張桔梗丘高校を統合し、名張青峰高校が開校する (旧名張西高校敷地)

	H17.3卒	H18.3卒	H19.3卒	H20.3卒	H21.3卒	H22.3卒	H23.3卒	H24.3卒	H25.3卒	H26.3卒
伊賀地域総学級数	41	39	39	37	35	35	33	32	32	31
地域中学校卒業生数	1948	1854	1917	1794	1724	1742	1673	1643	1607	1627

	H27.3卒	H28.3卒	H29.3卒	H30.3卒	H31.3卒	R2.3卒
伊賀地域総学級数	29	31	29	29	28	27
地域中学校卒業生数	1496	1607	1530	1549	1503	1449

(平成 20 年度募集定員)

**上野農業高校** 2 学級 80 人  
 食農科学科 (1)  
 景観園芸科 (1)  
**上野工業高校** 3 学級 120 人  
 機械科 (1)  
 住環境工学科 (1)  
 電子機械科 (1)  
**上野商業高校** 4 学級 160 人  
 情報ビジネス科 (1)  
 健康生活科 (1)  
 福祉科 (1) 普通科 (1)



(平成 21 年度募集定員)

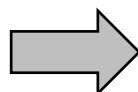
**伊賀白鳳高校** 7 学級 280 人  
 機械科  
 電子機械科  
 工芸デザイン科  
 生物資源科  
 フードシステム科  
 経営科  
 ヒューマンサービス科

《伊賀白鳳高等学校》

- ・工業、農業、商業、福祉の学科を有する三重県唯一の総合専門高校
- ・前期選抜では学科別の募集、後期選抜ではくくり募集 (入学者の一括募集、入学後にそれぞれの学科・コースを決定) を実施
- ・1 年生の 2 学期から 13 のコース (機械工学、ロボット、電気工学、建築・インテリア、デザイン、バイオサイエンス、生産ビジネス、フードサイエンス、パティシエ、ビジネス、マネジメント、介護福祉、生活福祉) に分かれる

(平成 27 年度募集定員)

**名張西高校** 4 学級 160 人  
 普通科 (2)  
 情報科 (1) 英語科 (1)  
**名張桔梗丘高校** 4 学級 160 人  
 普通科 (4)



(平成 28 年度募集定員)

**名張青峰高校**  
 8 学級 320 人  
 普通科 (7)  
 文理探究コース (1)

※令和5年度募集定員 (R5.3 伊賀地域中学校卒業見込み者数 1,420人:5校)

- 上野高校:240人 普通科5学級、理数科1学級
- 伊賀白鳳高校:240人  
機械科(35人)、電子機械科(35人)、建築デザイン科(35人)、生物資源科(35人)  
フードシステム科(35人)、経営科(30人) ヒューマンサービス科(35人)
- あけぼの学園高校:80人 総合学科2学級
- 名張青峰高校:240人 普通科5学級、文理探究コース1学級
- 名張高校:200人 総合学科5学級

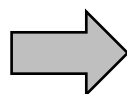
### 3 松阪地域の統合(宮川高校)

平成22年4月 宮川高校が相可高校と統合する(相可高校敷地)

	H18.3卒	H19.3卒	H20.3卒	H21.3卒	H22.3卒	H23.3卒	H24.3卒	H25.3卒	H26.3卒	H27.3卒
松阪地域総学級数	31	31	31	31	30	30	30	30	30	29
地域中学校卒業生数	2080	2071	2093	2013	1962	1962	1977	2066	2025	1982

(平成21年度募集定員)

相可高校 6学級 240人  
普通科(3)  
生産経済科(1)  
環境創造科(1)  
食物調理科(1)  
宮川高校 2学級 80人  
普通科(2)



(平成22年度募集定員)

相可高校 7学級 280人  
普通科(4)  
生産経済科(1)  
環境創造科(1)  
食物調理科(1)

※令和5年度募集定員 (R5.3 松阪地域中学校卒業見込み者数 1,937人:6校)

- 松阪高校:320人 普通科6学級、理数科2学級
- 松阪工業高校:200人 工業化学科1学級、機械科1学級、繊維デザイン科1学級、  
自動車科1学級、電気工学科1学級
- 松阪商業高校:160人 総合ビジネス科3学級、国際ビジネス科1学級
- 飯南高校:80人 総合学科2学級
- 相可高校:200人 普通科2学級、生産経済科1学級、環境創造科1学級、  
食物調理科1学級
- 昴学園高校:80人 総合学科2学級

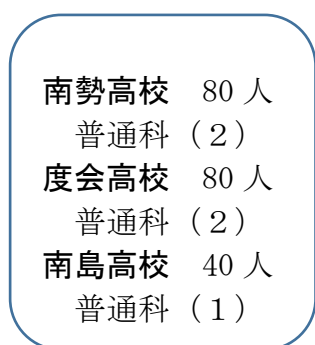
#### 4 伊勢志摩地域の統合（南勢高校・度会高校・南島高校）

平成 16 年 4 月 南勢高校・度会高校・南島高校の 3 校を統合し、校舎制の南伊勢高校が開校する

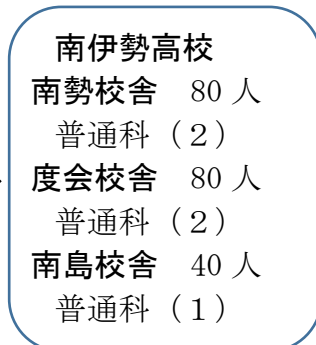
平成 19 年 4 月 南伊勢高校南島校舎が募集停止となる（H21.3 に閉校）

	H11.3 卒	H12.3 卒	H13.3 卒	H14.3 卒	H15.3 卒	H16.3 卒	H17.3 卒	H18.3 卒	H19.3 卒	H20.3 卒
伊勢志摩地域総学級数	62	60	58	56	55	55	50	48	47	47
地域中学校卒業生数	3427	3351	3240	3130	3009	3105	2864	2777	2675	2695

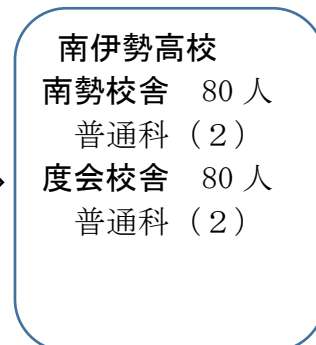
（平成 15 年度募集定員）



（平成 16 年度募集定員）



（平成 19 年度募集定員）



#### ※令和 5 年度募集定員

（R5.3 伊勢志摩地域中学校卒業見込み者数 1,928 人：9 校 10 校舎）

- 宇治山田高校：200 人 普通科 5 学級
- 伊勢高校：280 人 普通科 6 学級、国際科学コース 1 学級
- 伊勢工業高校：160 人 機械科 2 学級、建築科 1 学級、電気科 1 学級
- 宇治山田商業高校：200 人 商業科 3 学級、情報処理科 1 学級、国際科 1 学級
- 明野高校：160 人 生産科学科、食品科学科、生活教養科、福祉科、各 1 学級
- 南伊勢高校：南勢校舎、度会校舎あわせて 2 学級（80 人定員：普通科）
- 鳥羽高校：80 人 総合学科 2 学級
- 志摩高校：80 人 普通科 2 学級
- 水産高校：80 人 海洋・機関科 1 学級、水産資源科 1 学級

## 学級規模による教育環境の比較

## 1. 設置科目【普通科の教育課程における設置科目の例】

同じ普通科であっても各校の特色やコース設定があるため単純な比較はできないものの、学級規模が小さくなることにより、それぞれ開設科目が減少する傾向があります。

※R4年度入学生普通科(C校のみ単位制)

教科	科目	A校8学級	B校7学級	C校6学級	D校5学級	E校4学級	F校3学級	G校2学級	H校1学級
国語	現代の国語	○	○	○	○	○	○	○	○
	言語文化	○	○	○	○	○	○	○	○
	論理国語		○	○	○		○	○	○
	文学国語		○		○	○	○	○	
	国語表現		○		○				○
	古典探究	○	○	○	○		○	○	○
	(学校設定科目)	②		⑥	○	④	③		②
地理歴史	地理総合	○	○	○	○	○	○	○	○
	地理探究	○	○	○	○	○			
	歴史総合	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本史探究	○	○	○	○	○	○	○	○
	世界史探究	○	○	○	○	○	○	○	
	(学校設定科目)	③	③		○	○			
	公民	公共	○	○	○	○	○	○	○
倫理		○	○	○	○				
政治・経済		○	○	○		○	○	○	○
(学校設定科目)			②	③		○			
数学	数学Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○
	数学Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○
	数学Ⅲ	○	○	○	○	○			
	数学A	○	○	○	○	○	○	○	○
	数学B	○	○	○	○	○	○	○	○
	数学C	○	○	○	○		○	○	
	(学校設定科目)	②	③	⑧	⑤	③	③	②	○
理科	科学と人間生活				○	○	○	○	
	物理基礎	○	○	○	○		○		
	化学基礎	○	○	○	○	○	○	○	○
	生物基礎	○	○	○	○	○	○	○	○
	地学基礎	○		○	○				○
	物理	○	○	○	○		○		
	化学	○	○	○	○		○	○	
	生物	○	○	○	○	○	○		
(学校設定科目)	③	○	⑥					②	
保健体育	体育	○	○	○	○	○	○	○	○
	保健	○	○	○	○	○	○	○	○
(学校設定科目等)			④		○		○	○	
芸術	音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	○	○	○	○	○	○	○	○Ⅰのみ
	美術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	○	○	○	○	○	○	○	○Ⅰのみ
	書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	○	○	○		○Ⅲなし	○	○	
	(学校設定科目等)			⑩	○	⑥	○	②	②
外国語	英語コミュニケーションⅠ	○	○	○	○	○	○	○	○
	英語コミュニケーションⅡ	○	○	○	○	○	○	○	○
	英語コミュニケーションⅢ	○	○	○					
	論理・表現Ⅰ	○	○	○	○		○	○	○
	論理・表現Ⅱ	○	○	○				○	
	論理・表現Ⅲ	○	○	○					
	(学校設定科目等)		②	⑧	④	⑤	○		③
家庭	家庭基礎or家庭総合	○	○	○	○	○	②	○	○
	フードデザイン			○	○	○		○	
	(学校設定科目等)				○	○	○	○	③
情報	情報Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○
	情報Ⅱ		○	○	○		○		
	(学校設定科目等)			⑥		○	○		
商業	簿記				○	○		○	
	情報処理				○	○	○	○	○
	(学校設定科目等)					○		②	③
(学校設定科目等)	⑥	⑥		○	②		②	②	

○の中の数字は設置された科目数。○のみは1科目

## 2. 教員配置

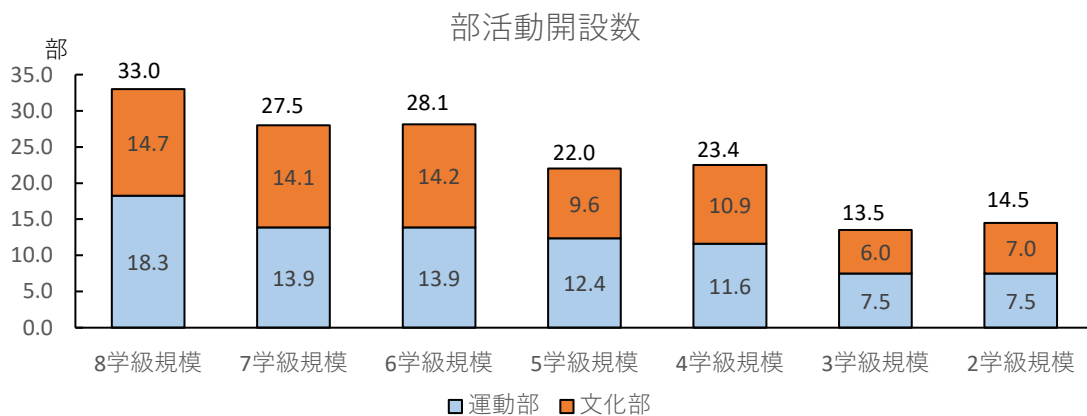
各校に配置する教員数は、学級数（≒募集定員）に応じて定められており、1学級減るごとに5～7人の教員が減ります。

学級数	8学級	7学級	6学級	5学級	4学級	3学級	2学級	1学級
教員数 (人)	52	47	42	35	28	22	15	8

※ 上記以外に一定の加配教員、非常勤講師の配置あり

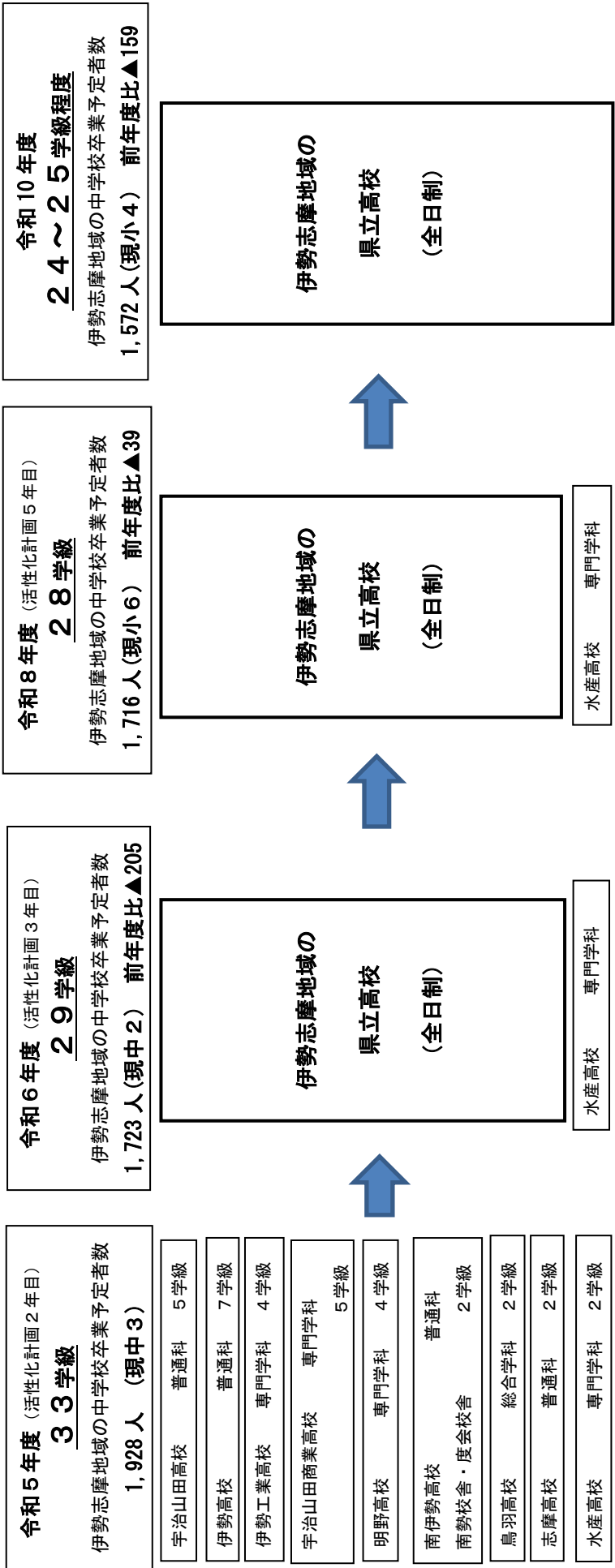
## 3. 部活動

部活動開設数については、4～8学級規模の学校では平均22～33部が開設されている一方で、2～3学級規模の学校では平均13.5～14.5部と、6学級規模以上の学校の半分程度になっているなど、学校規模が小さくなるほど生徒における部活動の選択の幅は限られる状況となっています。また、硬式野球、サッカー、バレーボール、バスケットボールなどの団体競技に所属する生徒数が少なくなり、単独チームでの大会出場が難しくなっています。

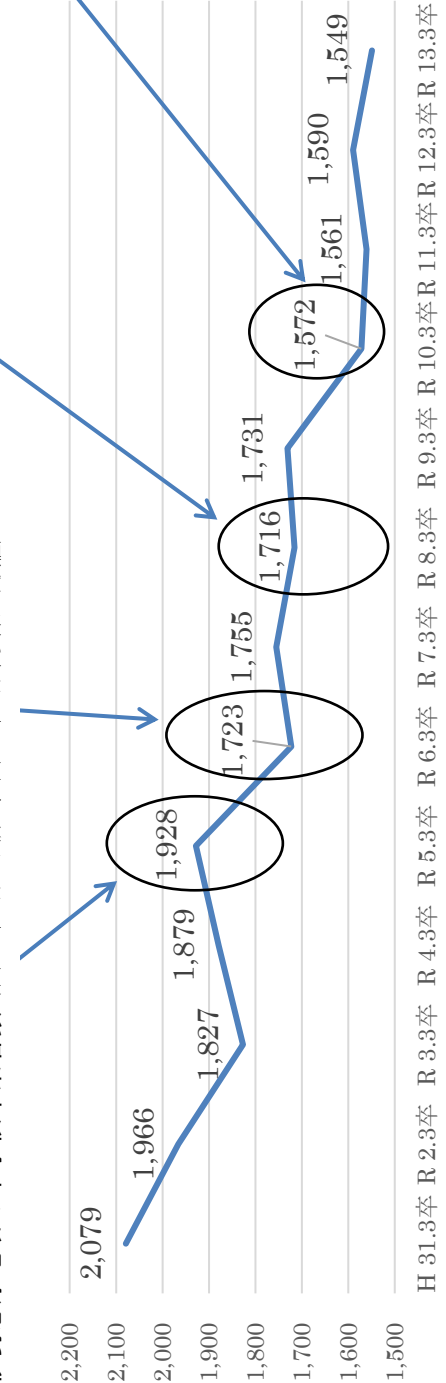


※ 令和2年度三重県学校体育・部活動実態調査より

# 令和10年度までの伊勢志摩地域の県立高等学校（全日制）の総学級数について



伊勢志摩地域の中学校卒業生数 (令和4年5月1日調べ、令和5年3月卒以降は予測値)



学科の割合 (令和5年度)	
普通科	48.5%
専門学科	45.5%
総合学科	6.1%

※伊勢志摩地域における県立高校と私立高校の募集定員の比率、中学校卒業生が市町を越えて高校進学する比率が、現在と大きく変わらない場合の予測に基づく。  
 ※地域における募集定員の普通科・専門学科・総合学科の比率、伊勢市内の高校と鳥羽・志摩・度会地域の高校の比率が、現在と大きく変わらない場合の予測に基づく。  
 ※中学校卒業予定者数は、令和4年5月1日時点の教育政策課による予測数値

## 地域の中学生・保護者を対象としたアンケート調査（案）について

- 調査主体：伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会
- 調査形態  
中学生：一人一台パソコンのＣＢＴシステム利用による生徒アンケート  
保護者：市町教委、中学校、生徒を通じて保護者への紙媒体でのアンケート
- 調査対象者  
中学生：伊勢志摩地域の中学２年生全員 約１６００人  
（伊勢市・鳥羽市・志摩市・度会町・南伊勢町・玉城町）  
保護者：同上の保護者
- 調査期間：１０月中旬頃

## 令和 2 ～ 3 年度協議会での意見

### 1. これからの県立高校生にはどのような力や学びが必要か。

#### 【県立高等学校活性化計画の記述】(計画 P 6 等参照)

- 自分の興味や関心、いま学んでいることと将来とのつながりを意識しながら自己の生き方や進路について主体的に考え、行動していくことのできる力を育む学び
- つまずきや失敗など困難な状況に際して、周りからの支援も得ながら、しなやかに対応していくことのできる力を育む学び
- 基礎的・基本的な知識・技能等の習得を基礎としながら、教科横断的な視点から創造的・論理的に考えることのできる力を育む学び
- 自他の生命を尊重する心や思いやりの心、規範意識などを身につけ、他者ととともによりよく生きようとする態度
- 自分の考えを持ち、他者の意見を受けとめ、課題解決に向け、協働してよりよい方策を見出していくことのできる力

#### 【協議会で出された主な意見】

- 三重県の県立高校においては、新学習指導要領にある「生きる力」、及び三重県教育ビジョンにある「生き抜く力」が各校に共通する育みたい力であると言える。加えて職業高校においては「社会の一員として働ける力」や「一生学び続ける向上心」を養うことが大切である。(R2、第 1 回)
- 地域への愛着心を育ててもらいたい。高校生が地域について学習して愛着心をもつことで、卒業後に進学や就職で一度地元を離れても、いつか地元に戻ってきたいという思いを育てることが大切である。(R2、第 1 回)
- 小中学生だけでなく、高校生も学校の授業の中で社会での実体験を積むことによって学びが広がり、将来職業を主体的に選択できる意識を育むことができる。(R2、第 1 回)
- 地域の子どもたちに、ふるさとを大切にするという意識を育んだうえで、この自然豊かな伊勢志摩地域の産業を如何にビジネスに変えて地域を発展させていくかを考えるような、将来の伊勢志摩地域のリーダーを地域全体で育てていく意識を共有していくべきである。(R3、第 1 回)
- 地場産業を含め、様々な職業をもっと身近に感じることのできるキャリア教育を進める必要がある。(R3、第 1 回)
- この地域の中で小学校から郷土愛を育てながら、高校でも地域を学ぶことによって愛着心を育成していくことが必要である。そのためには小規模校で実践している地域課題解決型学習を、大学進学をめざす高校でも学ぶプログラムをつくるべきである。(R3、第 2 回)
- 小規模校が実践してきた地域学習が、たとえば「伊勢志摩学」として、地元愛を育てる特色ある地域の教育としてこの地域に残していくことはできないか。(R3、第 2 回)
- 地域に与える経済的影響や伊勢志摩地域の第 1 次産業を担う生徒の育成といった視点も大切にすることが必要である。(R3、第 2 回)



これからの伊勢志摩地域の子どもたちには、変化の激しい時代を生き抜いていく力を育むとともに、地域への愛着心を養いながら地域課題に取り組む学習等を通じて、将来、地域の担い手となるような人材を育成することが大切である。

## 2. 今後の生徒減に伴い地域の高校について協議するにあたって、大切にすべきことや配慮すべきことについて

### 【県立高等学校活性化計画の記述】（計画 P19 参照）

- 15 年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、これからの時代に求められる学びを提供していくには、現行の高等学校の配置を継続していくのは難しい状況にある。このため、各地域の高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で1 学年3 学級以下の高等学校は統合についての協議も行うこととする。
- こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議することとする。

### 【協議会で出された主な意見】

- 道路事情が改善して広い地域からの通学が可能となったため、現状では伊勢志摩地域全体が一つの通学圏内としてとらえることができる。(R2、第2回)
- 専門学科の学びは魅力も高く、地域にとっても必要不可欠なものであり、なくすことができないものである。(R2、第2回)
- 伊勢志摩地域の県立高校のあり方を考えるにあたっては、中学生やその保護者の目線を大切にしながら、子どもたちが幸せな将来を創るための力をつけることができるような各学校の魅力を中学生に伝えることが重要になってくる。(R3、第1回)
- 少子化の中でも高校には多様な生徒のニーズに応える必要があり、地域の子どもの学びを保障するためにも、1 学級40 人の枠を柔軟に運用したり、ICT をうまく活用したりするなど、今後も様々な工夫を考えるべきである。(R3、第1回)
- 地域の高校のあり方を議論していくにあたり、子どもたちの学びが保障されることが大切である。(R3、第2回)
- 今まで培ってきた小規模校の学びの継承については、たとえばICT を活用した通信制課程で学びを保障していくなど、今後は協議会でも様々なアイデアを出し合い、課題を解決していかなければならない。(R3、第2回)
- 小規模校が実践してきた地域学習が、たとえば「伊勢志摩学」として、地元愛を育てる特色ある地域の教育としてこの地域に残していくことはできないか。(R3、第2回)
- 高校の再編統合を考える際には、生徒の通学の可否を交通機関の状態を考慮に入れながら、適切な場所へ高校を配置することが重要となる。(R3、第2回)
- 基礎学力の定着や通学困難生徒への対応、少人数教育による丁寧な指導など、これまで小規模校が担ってきた役割を、「誰一人取り残さない」という視点に立って、今

後の地域の高校の再編統合後も継承していく必要がある。(R3、第2回)

- 小規模校では多様な学びの保障は難しいが、一人ひとりへの丁寧な指導によって、生徒の自己肯定感を高め、学校生活の満足度は高くなる傾向にある。(R3、第2回)
- 当地域の高校の再編統合を進めるにあたっては、水産学科の学びは県内唯一の学科であること、地域に少ない総合学科の学びを維持していくこと等は大切な視点である。(R3、第2回)
- 伊勢志摩地域の高校の全体像を考えるにあたっては、地域の県立高校普通科のあり方も重要な要素となってくる。(R3、第2回)

これからの地域の高校を協議するにあたって、大切にすべきことや配慮すべきことは

- ①生徒や保護者の多様なニーズに対応するための工夫
  - ②ICTを活用した学習、学び直しをはじめ一人ひとりへの丁寧な指導
  - ③生徒の通学状況を考慮に入れた高校配置
  - ④これまで培ってきた地域と連携した学びの継続
- などである。

### 3. 今後の生徒減に対応した県立高等学校の配置の考え方について

#### 【協議会で出された主な意見】

##### (令和2年度の協議)

- 地域の高校は活性化に取り組んで魅力ある学校づくりを進めており、それぞれの高校には多様な個性や幅広い学力に対応するなど、それぞれが果たす役割や存在価値がある。(R2、第1回)
- 伊勢市内の専門学科設置校の3校は、来年度にはすべて1学年4学級規模となるが、これ以上の小規模化は教員数をはじめとする専門性や多種類の部活動の維持などに影響を及ぼし、学校全体の活力がなくなると危機感を感じている。専門学科設置校の再編・統合を視野に入れるなど、伊勢市内の高校のあり方も検討するべきと考える。(R2、第1回)
- 地域の小規模校は地域の活性化にも貢献しており、地域にはなくてはならない存在である。40人以下の学級編成やICT機器の活用などの工夫をすることによって、小規模校の維持・存続を図ってほしい。(R2、第2回)
- 鳥羽・志摩・度会地域の各小規模校はいずれも定員を満たしていない現状ではあるが、今後5年から10年の間はまだその役割は残されている。小規模校の再編統合が進めば、この地域の高校の配置が伊勢市に集中してしまうことが想定されるが、果たしてその状況があるべき姿であるか疑問が残る。(R2、第2回)
- 水産高校では地域の水産業と密着した専門的な学習や全国的なレベルでの資格取得において成果をあげたり、志摩高校でも地域医療と連携した学習を行ったりするなど、地域の中に高校がある意味は大きい。今後の生徒減の予測からは、どこかの学校が再編統合されるのは致し方ないのかもしれないが、40人にこだわらない学級定員とするなどの工夫で小規模校を維持してもらいたい。(R2、第2回)
- 今後の伊勢志摩地域の状況を考えると、高校の再編統合を検討していく時期に差し掛かっていると思われるが、それが単なる数合わせのための再編統合ではなく、も

っと大きな視点をもって地域の高校の配置や教育内容を深く考えていくべきである。  
(R2、第2回)

- 活性化の取組により小規模校の魅力が向上していることは理解できるが、地元中学から地域の小規模校への進学率が低いまま伸び悩んでいることを考えると、現実的には再編統合を進めていく必要がある。(R2、第2回)
- 高校現場からの視点で考えると、教育の質の確保のためには一定の規模が必要であり、小規模化することによる高校の魅力低下は避けられない。伊勢志摩地域全体を一つの地域として考えたうえで、それぞれの県立高校の魅力を高めることが必要である。(R2、第2回)

### (令和3年度の協議)

- 今後は小規模校における地域と一体となった学習活動の成果を活かしつつ、再編統合によって、伊勢志摩地域全体で地域の子どもたちの教育を考えていくことが必要である。(R3、第1回)
- 子どもたちの数が激減していく中で、この地域の高校をどのように変えていくのかについて、現実的で具体的な議論をしていくべきと考える。(R3、第1回)
- 小規模校の取組や教育内容は素晴らしいものの、様々な生徒の学びのニーズに応え、より魅力化するためには、高校には一定の規模が必要である。(R3、第2回)
- 今後も少子化が更に進行していく中、中学生が学びたい、保護者が学ばせたいと思われる高校でなければ生徒は集まらない。伊勢志摩地域の高校を再編統合していくことで、子どもたちの学ぶ環境を整備していく時期に来ているのではないかと考える。(R3、第2回)
- 地域の小規模校の取組は魅力的であると考えますが、入学者の状況から判断すると、子どもたちに選ばれていないのが現実である。高校には子どもたちが希望する学びの選択肢があることが大切であるため、この地域の高校を再編統合していくことはやむを得ないと考える。(R3、第2回)
- 地域では地元の高校と連携、支援をしながら活性化に取り組んできたが、高校側も限られた教職員数では多様な学びに対応できないなど、小規模校がおかれた厳しい状況は理解できるため、今後の少子化が進行していく中では高校の再編統合を検討せざるを得ない。(R3、第2回)
- これまでの活性化の取組によって、小規模校の魅力化や活性化は進んだが、地元の生徒の進学率が上がらない等の現状から考えると、伊勢志摩地域の高校で再編統合を進めていく方向性は致し方ないと言える。(R3、第2回)
- 高校のあり方に関しては、子どもたちの学びの選択肢を保障していくことが一番重要であるため、今後は伊勢志摩地域の高校の再編統合は必要不可欠である。  
(R3、第2回)

今後の伊勢志摩地域の中学校卒業生数の減少をふまえると、現在のままの県立高校の配置を続けていくことは難しい。これまでの地域の小規模校の教育内容を活かしつつ、この地域の高校の再編統合を協議していく必要がある。

## 令和 4 年度第 1 回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会(6/8)の概要

1 日時 令和 4 年 6 月 8 日(水) 19 時 00 分から 21 時 00 分まで

2 場所 伊勢庁舎 401 会議室

### 3 概要

15 年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、伊勢志摩地域の県立高等学校の総学級数は令和 19 年度には現在の 32 学級から 18~21 学級となることが見込まれることから、令和 4 年 3 月に策定された「県立高等学校活性化計画」や当協議会でのこれまでの協議をふまえ、これからの伊勢志摩地域における県立高等学校の学びと配置のあり方について協議しました。

主な意見は次のとおりです

#### <これからの協議に係る考え方について>

- 協議会の目的は、その設置要綱にあるように「伊勢志摩地域における高等学校の特色化・魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備する」ためであり、定員が埋まることだけでなく、この目的を達成することを大事にしていくべきである。
- 前計画期間中は、1 学年 3 学級以下の高校をどう活性化するかを中心に協議し、学校も地域も取り組んできたが、なかなか生徒が集まらない現状をふまえ、3 学級以下の高校は統合についても協議を行うとなった。これからの協議については、3 学級以下の高校だけではなく、伊勢志摩地域全体の高校で学びのあり方を考えていく必要がある。
- これまでの協議では、3 年後、5 年後のことを考えてきたが、これからの地域の高校のあり方を協議するには、今回の「県立高等学校活性化計画」に明記された 15 年後を見据えたグランドデザインの視点から議論することが非常に大切である。また、「入学者が 2 年連続して 20 人に満たず、その後も増える見込みのない場合は、募集停止とする」や「1 学年 3 学級以下の高等学校は統合についての協議も行う」などが明記されたことも、協議会としても重く受け止め、今年度中に一定の結論をまとめる必要がある。
- 伊勢市内の高校の在り方について協議を行う場合は、授業料が実質無償化となった私立高校のあり方も含めながら議論していく必要がある。伊勢市内の普通科や専門学科の高校関係者や私立高校の状況に詳しい方と情報交換をすることで、伊勢志摩地域全体の高校再編をどうしていくかの議論を深めるべきだ。

- 地元を代表した委員として、定員を満たさない学校が地元で2校あることは、苦しく統廃合の対象になるという危機感を持っている。伊勢志摩地域全体のことを考えなければならないのは重々わかっているが、単に数の論理により統廃合を行うのではなく、小規模校でも残さなければいけない学校もあるという視点も持ちながら協議すべきだ。

#### <15年先を見据えたこれからの伊勢志摩地域の学科や学びについて>

- 全体の学級数が減少していく中、この地域から学習意欲の高い生徒が他地域へ流出することを防ぐためには、当地域の進学校の定員を大きく減らすことはできない。また、学科の配置については、この地域の専門的な学びを残しながら、いかにバランスの取れた普通科、専門学科、総合学科の配置にするかの議論が必要となる。
- この伊勢志摩地域の将来の担い手を育成していくためには、この地域で生まれ育った若者が地域に残って活躍したり、一旦地域外に進学や就職しても地域に戻ってきたりすることが大事であり、そのためにも学校教育は大きな役割を果たしている。これからの地域を担う若者を育てるうえで大切なことは、小規模校で取り組んでいる地域での学びを、伊勢市内の専門高校や大学進学を目指す普通科高校においてもより充実し、小中学校で行われている「ふるさと教育」などの地域学習とともに、地域の小中高全体が目的を共有して教育を行うことである。
- 統廃合やむなしとなった場合には、たとえば地域の工業高校と商業高校の統廃合だけでなく、場合によっては他地域の同一の専門学科同士での統廃合を考えるなど、当地域だけでなく視野を広げた議論が必要である。
- 今後の少子化の中で、他地域を含めた専門学科の配置については、工業高校同士や商業高校同士の統廃合や拠点化の考えもあると思うが、地域に専門的な学びがなくなることにつながるため、今後も協議が必要である。

#### <ICTの活用について>

- 分校化、校舎制の議論や小規模校を残すかなどの議論をより具体的に進めるためには、小規模校におけるICTの活用状況や通学時間など、多面的な要素を整理して協議していく必要がある。
- 1学級40人という学級編成についても、ICTの活用によって、たとえば5人の学びをいくつかの学校と繋ぐ方法など、柔軟に考えていく必要がある。
- ICTを活用した遠隔授業は、専門的な知識を吸収する場合には効果的だが、本来の学校教育では、対面での授業が大変重要である。
- 授業でのICTの活用については、通信環境も整い、子どもたちも慣れてきてい

るため、進んでいるものの、実際の現場ではやはり授業の「熱」が子どもたちに伝わりにくいと感じている。

- 子どもたちの成長には、人と人との交わりが大事であり、仮にICTの活用がさらに進んだとしても、小規模校を維持していく理由にはならないだろう。
- アンケート結果からもわかるように、高校生のタブレット使用にかかるニーズの中心は、理解できるまで繰り返し学習できる場所にあり、遠隔授業での活用というところにはないのではないか。小学校現場でコロナ禍に遠隔授業を行ったが、「やっぱり教室が楽しいよね」との子どもたちの声があった。ICTを活用して様々な人と繋がることは非常に意味のあることではあるが、その活用方法については、まだこれから実践を積み重ねていく必要がある。

### <その他>

- 活性化計画の中にあるキャリア教育の推進については、高校生が働く意義を自覚していくためにも非常に大切である。各高校には特別な支援が必要な生徒が一定数いることから、単に学力の向上だけでなく、人間性の育成の観点からも就業支援を含むキャリア教育を推進してもらいたい。
- 子どもたちが幸せに学ぶ場とは、地域や地域の人から学ぶことが基本である。対面で授業をすることが一番だと思うが、通信制高校にたくさんの生徒が流れている現状や、多様化している生徒のニーズに応えるためには、学校独自の学びをより特色化し、魅力を高めるとともに、中学生や保護者にわかりやすく示していくことが大切である。
- 通信制高校への進学が増えていることについては、中学校の進路指導も一つの要因ではないか。

伊勢志摩地域 中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）

令和4年5月1日 教育政策課調べ

参考資料3(R4.第2回資料)

		H 15.3 卒業	H 31.3 卒業	R 2.3 卒業	R 3.3 卒業	R 4.3 卒業	R 5.3 現中3	R 6.3 現中2	R 7.3 現中1	R 8.3 現小6	R 9.3 現小5	R 10.3 現小4	R 11.3 現小3	R 12.3 現小2	R 13.3 現小1
伊勢市	卒業生数	1,510	1,170	1,087	1,057	1,082	1,127	972	1,030	999	1,030	975	900	955	912
	前年度対比			-83	-30	25	45	-155	58	-31	31	-55	-75	55	-43
	R4.3対比						45	-110	-52	-83	-52	-107	-182	-127	-170
度会郡	卒業生数	552	369	358	308	315	337	311	319	292	305	263	272	279	288
	前年度対比			-11	-50	7	22	-26	8	-27	13	-42	9	7	9
	R4.3対比						22	-4	4	-23	-10	-52	-43	-36	-27
鳥羽市	卒業生数	294	140	132	149	143	122	105	119	110	98	95	107	83	100
	前年度対比			-8	17	-6	-21	-17	14	-9	-12	-3	12	-24	17
	R4.3対比						-21	-38	-24	-33	-45	-48	-36	-60	-43
志摩市	卒業生数	653	400	389	313	339	342	335	287	315	298	239	282	273	249
	前年度対比			-11	-76	26	3	-7	-48	28	-17	-59	43	-9	-24
	R4.3対比						3	-4	-52	-24	-41	-100	-57	-66	-90
小計	卒業生数	3,009	2,079	1,966	1,827	1,879	1,928	1,723	1,755	1,716	1,731	1,572	1,561	1,590	1,549
	前年度対比			-113	-139	52	49	-205	32	-39	15	-159	-11	29	-41
	R4.3対比						49	-156	-124	-163	-148	-307	-318	-289	-330
県内合計	卒業生数	20,468	16,811	16,489	15,777	16,244	16,044	15,880	15,607	15,433	15,225	14,717	14,358	14,053	14,006
	前年度対比			-322	-712	467	-200	-164	-273	-174	-208	-508	-359	-305	-47
	R4.3対比						-200	-364	-637	-811	-1,019	-1,527	-1,886	-2,191	-2,238

伊勢市内高校 (県立全日)	学級数(募集)	26	26	24	24	24										
	欠員	2	15	3	0											
伊勢以外高校 (県立全日)	学級数(募集)	10	8	8	8	8										
	欠員	84	77	117	129											
伊勢地区高校 (県立全日)	学級数(募集)	36	34	32	32	32										
	欠員	86	92	120	129											
県内(県立全日)	学級数(募集)	293	285	271	274	274										
	欠員	192	339	325	324											

(私立、高専入学者の状況)

皇學館	募集	320	320	315	315	315										
	入学者数	336	378	323	353											
伊勢学園	募集	220	220	220	230	230										
	入学者数	243	245	283	274											
鳥羽商船	募集	120	120	120	120	120										
	入学者数	122	126	128	120											
3校の欠員数(合計)		-41	-89	-79	-82											

(参考)

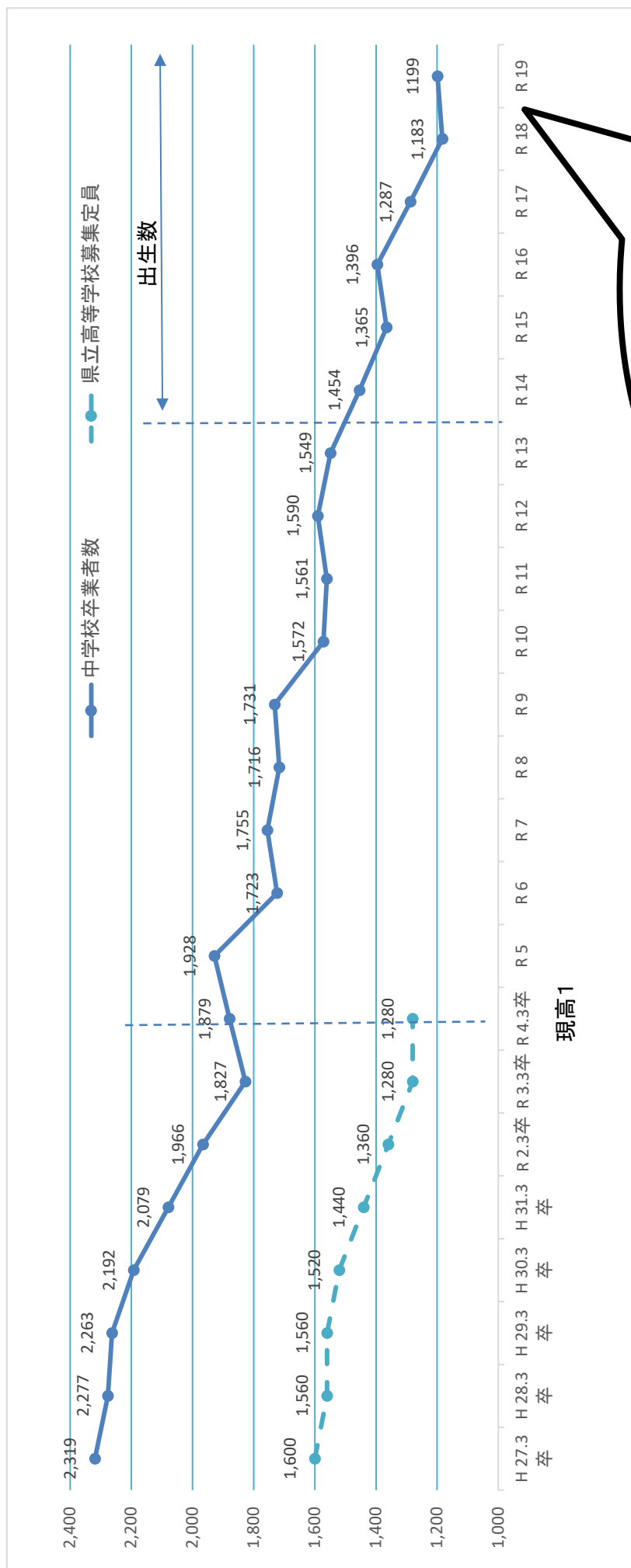
※欠員の(一)は、定員を超過した入学者数を示す。

三重	募集	530	530	530	540	540										
	入学者数	591	624	548	584											

# 伊勢志摩地域の中学校卒業生数(予測)と県立高等学校募集定員

参考資料4 (R4第2回資料)

※R14年度以降は地域の出生数を記載



## 伊勢志摩地域の出生数

	H27年度出生 現小1	H28年度出生 5~6才	H29年度出生 4~5才	H30年度出生 3~4才	R1年度出生 2~3才	R2年度出生 1~2才	R3年度出生 0~1才
伊勢市	935	864	814	883	811	761	744
鳥羽市	108	109	94	98	83	65	88
志摩市	258	240	227	209	205	177	167
度会郡	273	241	230	206	188	180	200
合計	1,574	1,454	1,365	1,396	1,287	1,183	1,199

令和19年度(15年後)  
伊勢志摩地域県立高等学校  
募集定員総数の見込み  
**18~21学級規模**





## 高校や将来に関するアンケート（案）

伊勢志摩地域の中学2年生のみなさんへ

令和4年〇月 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会

### 1 あなたは、どこに住んでいますか。次から1つ選んでください。

- ① 伊勢市 ② 鳥羽市 ③ 志摩市 ④ 度会町 ⑤ 南伊勢町 ⑥ 玉城町

### 2 あなたの学校の2年生は何人ですか。次から1つ選んでください。

- ① 20人以下 ② 21～40人 ③ 41～80人 ④ 81～120人  
⑤ 121～160人 ⑥ 161人以上

### 3 あなたが高校を選ぶとき、重視することは何ですか。2つ以内で選んでください。

- ① 大学進学につながる学力向上を目指した学習ができる  
② 就職につながる専門的な知識や技能、資格が習得できる  
③ 進学や就職など多様な進路に応じた学習を選択することができる  
④ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している  
⑤ 入りたい部活動がある  
⑥ 多くの友だちや先生と出会うことが期待できる  
⑦ 一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな教育が期待できる  
⑧ 通学しやすい  
⑨ その他（3-2の自由記述へ）

#### 3-2 3で「⑧その他」を選んだ人は、重視する内容を書いてください。

### 4 あなたが入学する高校には、どのような教育を期待しますか。2つ以内で選んでください。

- ① 主体的に学び続ける力を育む教育 ② 進路選択の力を育む教育  
③ 地域と協働しながら課題解決力を育む教育 ④ 人権意識を高める教育  
⑤ 学び直しや基本的な知識の習得ができる教育 ⑥ ICTを積極的に活用した教育  
⑦ グローバル社会で活躍できる力を育む教育  
⑧ 社会性や協調性、コミュニケーション能力を育む教育  
⑨ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感を身につけることができる教育  
⑩ その他（4-2の自由記述へ）

#### 4-2 4で「⑩その他」を選んだ人は、期待する内容を書いてください。

**5 高校の学級は40人1学級を基本としています。あなたが進学するとしたら、1学年あたりどのくらいの学級数(人数)の高校に入学したいですか。次から1つ選んでください。**

- ① 1学級～2学級(～80人)
- ② 3学級～4学級(81人～160人)
- ③ 5学級～6学級(161～240人)
- ④ 7学級以上(241人～)

**5-2 5の学級数を選んだ理由で最もあてはまるものを、次から1つ選んでください。**

- ① 友だちや先輩、先生など、多くの出会いがあると思うから
- ② 学習や部活動等で自分の興味・関心にもとづく多様な選択ができると思うから
- ③ 友だちや先輩、先生との関係が深まりやすいと思うから
- ④ 先生に学習や生活面できめ細やかな指導を受けられやすいと思うから
- ⑤ その他(5-3の自由記述へ)

**5-3 5-2で「⑤その他」を選んだ人は、その理由を書いてください。**

**6 あなたは、進学したい高校までの通学時間は、どれくらいまでなら可能であると思いますか。次から1つ選んでください。**

- ① 30分未満
- ② 30分以上、1時間未満
- ③ 1時間以上、1時間30分未満
- ④ 1時間30分以上、2時間未満
- ⑤ 2時間以上

**7 小中学校では、自分が住んでいる市町の自然・文化・産業などについて学習してきました。高校進学後の地域の学習について、どのように取り組みたいと思いますか。最も当てはまるものを次から1つ選んでください。**

- ① 進学した高校が所在する市町について学んでみたい
- ② 進学した高校が所在する市町だけでなく、伊勢志摩地域全体のことについて学んでみたい
- ③ 高校では地域の学習には特に取り組まなくてもよい
- ④ その他(7-2の自由記述へ)

**7-2 7で「④その他」を選んだ人は、どのように取り組みたいか書いてください。**

**8 将来(中学・高校・大学等の学校を卒業後)、あなたはどこで生活したり、働いたりしたいですか。次から1つ選んでください。**

- ① 地元(現在住んでいる市町)
- ② 地元以外の伊勢志摩地域
- ③ 伊勢志摩地域以外の三重県内
- ④ 県外
- ⑤ 海外
- ⑥ 一度は地元を離れても、いつかは戻りたい
- ⑦ まだ決まっていない、わからない



**2 お子さんが入学する高校には、どのような教育を期待しますか。2つ以内で選んでください。**

- ① 主体的に学び続ける力を育む教育
- ② 進路選択の力を育む教育
- ③ 地域と協働しながら課題解決力を育む教育
- ④ 人権意識を高める教育
- ⑤ 学び直しや基本的な知識の習得ができる教育
- ⑥ ICTを積極的に活用した教育
- ⑦ グローバル社会で活躍できる力を育む教育
- ⑧ 社会性や協調性、コミュニケーション能力を育む教育
- ⑨ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感を身につけることができる教育
- ⑩ その他 ( )

**3 伊勢志摩地域で 18～21 学級規模と見込まれる 15 年先の県立高校について、あなたの意見に最も近いものはどれですか。次の①～③から 1つ選んでください。**

- ① 地域の高校のほとんどが小規模の高校になっても、統合は避けるべき
- ② 地域に大規模の高校、中規模の高校を配置するために、一定の統合は避けられない
- ③ 地域に大規模の高校、中規模の高校をできる限り配置するために、必要な統合を進めるべき

**4 3の理由を記入してください。**

**5 お子さんが進学したい高校までの通学時間は、どれくらいまでなら可能だと思いますか。次から 1つ選んでください。**

- ① 30分未満
- ② 30分以上、1時間未満
- ③ 1時間以上、1時間30分未満
- ④ 1時間30分以上、2時間未満
- ⑤ 2時間以上

**6 将来（中学・高校・大学等の学校を卒業後）、お子さんはどこで生活してほしいと考えていますか。次から 1つ選んでください。**

- ① 地元（現在住んでいる市町）
- ② 地元以外の伊勢志摩地域
- ③ 伊勢志摩地域以外の三重県内
- ④ 県外
- ⑤ 海外
- ⑥ 一度は地元を離れても、いつかは戻ってほしい
- ⑦ 本人の希望次第
- ⑧ 特に考えはない

**7 今後の伊勢志摩地域の県立高校の学びと配置のあり方について、ご意見があればお聞かせください。**

ご協力ありがとうございました。